

新柏クリニックと周辺施設

施設利用者と地域のQOL・帰属意識を向上させる「森林浴のできるメディカルケアタウン」づくり



取組の位置



地域課題・目的

【地域課題】

- 計画地は、小中学校の通学路に面しているものの、鉄道敷や水道局施設に囲まれ、日中の人通りは少なく閑散とした街区景観を呈していた。
- 事業主の原風景である里山雑木林景観の保全と病院経営（他との差別化、人材難への対応）を両立し得る、自然重視の解決策を模索していた。
- 同市内の中核病院の医師寮・看護師寮用地としての貸借期間が終わり、地主である事業主は跡地の活用方針の策定を行う必要があった。

【目的】

- 事業主が掲げる「最善の医療を、最良の環境で提供し、患者に貢献する」を実現するみどりと建築を創出する。

取組内容

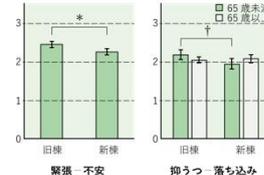
- 新柏クリニック(1期)：木造・木質架構で開放感のある透析室を持つ**森林浴のできる診療所**
- めぐりの庭(2期)：緑豊かで患者個人の症状・体力に合わせた運動療法の実践が出来るリハビリテーションガーデン
- 糖尿病みらい(3期)：「待つ」から「過ごす」へ受診体験を変化させる糖尿病専門治療センター
- 3期計6年の整備事業を通じて、みどり豊かなまち「森林浴のできるメディカルケアタウン」づくりを行った。
- 木造・木質の診察室や庭園のある診療所が、患者や地域住民に与える影響について、継続的なアンケート調査を実施し、抑うつや地域への帰属意識等について有意な相関を明らかにした。



取組効果

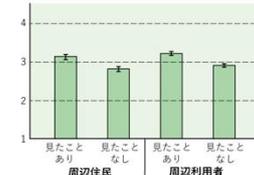
- **健康への寄与**：患者の負担軽減を目指し、木造・木質を主体とした建物づくりと緑豊かな屋外計画により、**患者のQOLと地域住民の帰属意識・健康意識の向上を実現**。（日本透析医学会、日本建築学会等にて発表）
- **まちへの寄与**：ひとつの敷地から始まった取り組みが、みどり豊かなまちづくりへと展開し、数多くの**社会的評価**を受けている。（グッドデザイン賞、IAUD国際デザイン賞、SEGESそだてる緑、他多数）
- **環境への寄与**：耐火集成材による独自の木造技術により、国産材カラマツ210本分、**145㎡の木材**を使用することで**約100tのCO2を固定**。
- **医療経営への寄与**：医療・福祉業界の深刻な人材不足の中、建替えを契機に看護師・スタッフの増員が可能となった（現在の18名の看護師のうち、4~5名が**建替え後に増員**できた）。また、新聞広告や医療専門の人材仲介会社に依存していた**求人費用が不要**となった。

POMS 短縮版



クリニックの木質空間が患者の陰性気分を低下する効果があったことが示唆された

地域への帰属意識 (N=924)



糖尿病みらいを直接見たことがある人の方が地域への帰属意識が有意に高い



問合せ先

団体名：医療法人社団中郷会 新柏クリニック、株式会社竹中工務店

連絡先：竹中工務店 設計本部 アドバンストデザイン部 ランドスケープグループ suzuki.kouhei@takenaka.co.jp

工夫した点

【計画・設計フェーズ】

- 1期～3期の計画を通して人と自然と社会を一体的に読み解き、地域生態系に配慮した**地域景観のベースとなる雑木林景観づくり**と**自然共生型コミュニティづくり**に取り組んだ。その結果、**在来種主体の生物多様性の高い緑地整備**を実現。
- 自治体による生きもの調査記録と自社保有データを用いた鳥類の飛来・棲息予測に基づき7種を誘致目標種に設定し、植栽計画に反映。竣工後に隣接敷地の整備活用方針立案のために実施した生きもの調査（2020年、4回）では、**誘致目標種7種のうち、4種の飛来が確認**された。
- 雨水排水管への**堅樋非接続**と雨水の一次貯留・浸透を図る「**レインスケープ®（雨庭）**」により気候変動適応策としての公共下水道への負荷軽減と雨水を見える化する「**雨水建築**」と「**雨も愉しむ庭**」を実現。
- 緑地や空間デザインで健康を促す固有技術「**健築®まちづくりコード**」の知見を用いながら、計画各期で共通の素材利用（緑・植物、木質材料、石材等）と建築デザイン（水平基調、抜け、深い軒等）を実践し、生態系サービスとしての健康にも寄与する**統一感のある街区景観**を創出。

【工事フェーズ】

- 建設工事の竣工に合わせて診療所スタッフ及びプロジェクト関係者とその家族による参加型イベント（巣箱づくりWS、花苗植付会）を企画・実施し、**施設と自然への愛着を醸成**。

【維持管理・運営フェーズ】

- 診療所スタッフによる道路の落ち葉清掃や、地元幼稚園への緑地の開放、鯉のぼりの掲揚等、**地域への主体的な関わり**を通じて、**職場・地域への帰属意識を醸成**。
- 事業主、設計・施工者、維持管理者の継続的なコミュニケーションと関与により、緑地認証の取得等、**経年優化する医療施設づくり**を実践。

【導入技術の名称】 雨水貯留浸透技術『**レインスケープ®**』
 （自社保有技術） 『**都市鳥類に配慮した緑地計画技術**』
 『**健築®まちづくりコード**』



【写真版權】 *：小川重雄、**：宮下潤、無印：新柏クリニック、株竹中工務店

今後期待される効果

- 診療所の医療環境と周辺街区の生活環境の向上に伴う患者、診療所スタッフおよび周辺住民の更なる**QOLの向上**、**まちへの愛着・コミュニティの醸成**により、人と人、人と自然をつなぐ**ハブとしての機能を発揮**。
- 周辺の他事業者（周辺医療施設、住宅開発事業者等）を巻き込んだ**みどり豊かなまちづくりの連鎖的な展開と進展**。
- 自然の力を活かし、事業主が目指す「**最高の環境で医療を提供する**」**先進的な医療施設の新しいスタンダード**として広く参照され、同様の施設が増加。

今後の展望

- 隣接する雑木林において実施した生きもの調査（植物及び鳥類、2020年）を今後の樹林整備や保全活用計画に活かす。
- 地元自治体との連携強化と地域への貢献を評価する仕組み（補助金・助成金、税制優遇、表彰制度など）づくりへの提言と展開。
- みどり豊かなまちや建築と健康やQOLの関連性を明らかにする調査・研究の継続。
- 緑地認証（SEGES そだてる緑）の更新を継続するとともに、自然共生サイト（環境省）への登録等を通じて、**ネイチャーポジティブな社会の実現に貢献する医療施設の追求**。



ハツ堀のしみず谷津 ～産官学民の連携・共創による湿地の再生と活用～



月1回の湿地の再生活動の様子



ホテル調査に参加したコアメンバー/連携メンバー



稲作体験で収穫したお米

取組の位置

地域課題・目的



【地域課題】

印旛沼流域では谷津*での湧水を活かした稲作によって自然の機能が維持されてきたが、高度経済成長期以降、谷津の荒廃・埋立が進行し、生物多様性の劣化や水質浄化機能の低下、景観の悪化、豪雨時の水害の多発など、自然の喪失に伴う問題が発生している。しかし、生活や仕事の中で**自然とのかかわり**が減少したために、**谷津の現状や魅力が顕在化しづらい状況**となっている。

【目的】

誰もが自由に参加し提案・実験できる場を構築し、産官学民連携や新たな視点・技術の導入などにより、営農に留まらない多様な方法で谷津を活用する。それにより、**新たな「人と自然のかかわり方」を構築**することで、生物多様性や健全な水循環等の多様な機能を有する湿地グリーンインフラを創出する。

*台地が侵食されてできた小さな谷地形



▲再生前の様子



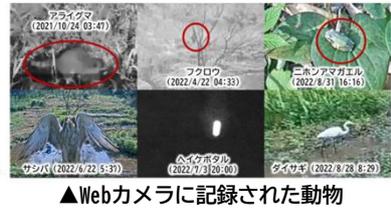
▲谷津の仕組み

取組内容

2021年4月以降、コアメンバーによる**月1回の管理作業**により開放水面のある明るい湿地を再生。現在も活動を継続しながら連携メンバーを増やし、**多様な方法**で課題解決に取り組んでいる。

取組効果

- 全方位型のWebカメラの設置により、遠隔からの効果検証や侵略的外来種の発見を可能にし、**迅速な順応的管理**を実現した。
- 360度画像を用いた建設現場管理ソフトの活用により、遠隔からの合意形成や適時適切な作業依頼を可能にし、**メンバー間の相互理解・連携強化**につながった。
- プログラミングと組み合わせたイベントで谷津での秘密基地づくりの様子を全国にオンライン配信したほか、活動の魅力がSNSで発信するなどし、**保全に関わる関係人口を創出・拡大**した。

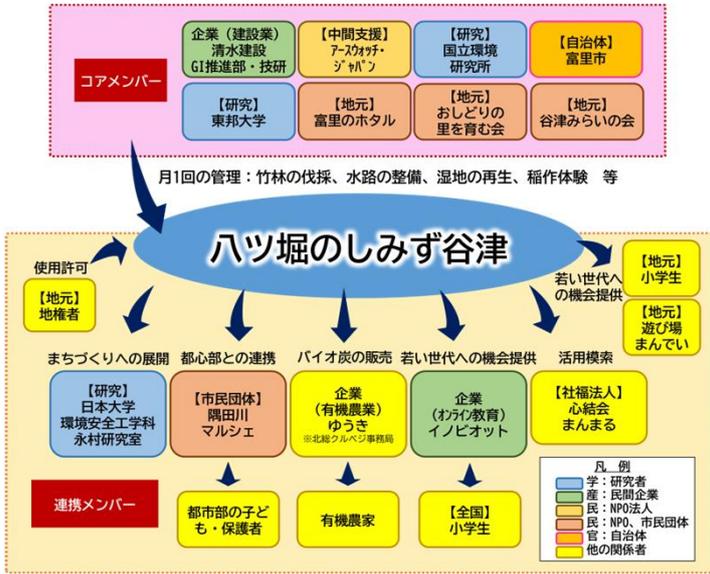
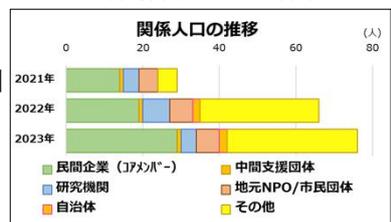


▲Webカメラに記録された動物



▲現場管理ソフトの活用

⇒これらの取り組みにより、月1回という低頻度の活動でも**持続的な谷津の維持・管理が十分可能となり**、新たな再生活動の基盤を構築することができた。



問合せ先

団体名：清水建設株式会社

連絡先：E-mail k.matsueda@shimz.co.jp

TEL 090-2675-3761 松枝 健太郎

工夫した点

● 多様な主体と新たな活用方法を探る「リビングラボ」再生活動をCSV*1として位置づけ、**リビングラボ*2**のアプローチを採用することで、柔軟かつオープンなかかわり方を実現した。それにより、参加者全員で**楽しみながら再生活動を実施**することが可能となり、結果として地域固有の自然の維持につながっている。さらに、本取組では以下のような**多様な機能や価値が生み出されている**。

(1) 地域コミュニティの形成／都市部との共創

- ボランティア受け入れや地元の児童・生徒向けのワークショップの実施、近隣の谷津で活動している4つの市民団体とのウォークイベントの共同開催など、谷津を核とした地域のコミュニティ・ネットワーク形成に寄与している。
- 東京都江東区の七夕イベントや隅田川マルシェで谷津の竹を提供したことがきっかけとなり、地域の自然の恵みが都市部の賑わいや商品として活用されるきっかけが創出され、地域を超えた「循環」の輪が広がっている。

(2) 自然体験の機会拡大／越境学習の場の創出

- 谷津での秘密基地づくりの様子を全国の174世帯にオンラインで配信したことで、子どもたちが谷津を知る機会や自然体験の魅力を共有する場を創出している。
- 一般/従業員向けの参加型調査プログラムや稲作体験会を実施し、大人にも新たな学びの機会を提供している。

(3) 脱炭素・資源循環・自然共生への同時貢献

- 湿地の再生により、明るい環境を好む水生植物や水生昆虫の生息・生育、及び生活史の中で樹林と湿地の組み合わせが必要な種（シュレーゲルアオガエルやオオアオイトトンボ等）の繁殖が確認されている。
- 伐採竹からバイオ炭を作り、地元企業を通じて農家に計1,080kgを販売した。活動を通じて年間約1.7t-CO₂の炭素を固定し、地域の脱炭素・資源循環に貢献している。

- *1 企業が社会課題の解決に取り組むことによる経済と社会の共通価値の創造
- *2 社会課題の解決を目指し、生活空間の近くで様々な実験を行う空間や活動のこと



富里市との連携による子ども向けワークショップの開催



“谷津ウォーク”の共同開催



竹を活かした商品づくり（隅田川マルシェ）



笹飾りの提供（七夕めぐり2023）

農作物の販売・遊び道具の提供（隅田川マルシェ）



秘密基地づくり

オンラインイベントでの発信



湿地グリーンインフラの再生

従業員参加型の調査



バイオ炭づくり

稲作体験

今後期待される効果

- 湿地の再生活動だけでなく、産官学民など組織の枠を超えた多様な連携によるイベント開催等により、湿地グリーンインフラの価値に関する理解促進や、再生活動への適度なかわり方を提供する窓口として発信を継続することで、**新たな層への関心喚起やファンコミュニティの創出・拡大**が予想される。
- 谷津の生態系の価値を証明する科学的データの蓄積を継続し、国際的な目標である30by30の主要施策「**自然共生サイト**」認定を目指すことで、森林保全等と比べ注目が集まりにくい湿地再生活動の機運を醸成し**ネイチャーポジティブの実現**に寄与する。

今後の展望

- 低未利用地を活用した多機能なグリーンインフラを低コストかつ低労力で実現する技術や、デジタルツイン活用によるモニタリング技術等の開発を進め、**自治体の垣根を超えた水害リスク低減に資する流域治水の実践**を図る。
- 近隣に現存する地域資源の深掘りと地域内での協働の場づくりを進め、地域資源の価値の再認識を促進することで、**地域経済の活性化につながるエコツーリズムへの発展**を図る。
- コアメンバーの社員を対象とした体験型環境教育の場としてだけでなく、自然の中での活動によるWell-being向上に資する科学的データを蓄積し、**周辺企業の健康経営に資する場としての活用**を図る。



◀みらいいアカデミア
秘密基地プロジェクト2022



◀みらいいアカデミア
秘密基地プロジェクト2023



◀ハツ堀のしみず谷津
360度画像の閲覧